

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200141		
法人名	社会福祉法人 柚子の会		
事業所名	グループホーム リブ花見川		
所在地	千葉県花見川区花見川3-29-201		
自己評価作成日	令和7年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と入居者との関係ではなく、相手の望む関係作りを心掛け、安らぎの中に居心地の良い空間を作り、一緒に散歩に出掛けたりして地域の方と触れ合い、一日楽しかったと思って頂けるような支援をします。施設は花見川団地の中心の商店街に隣接しており、京成八千代台駅より路線バスが約13分で随時運行し、ご家族の方が訪問に便利です。建物内は広々とした廊下を中心に居室、食堂、談話室があり、フロアでは天候に影響されず適度な運動が可能で、家庭的で暖かみのある落ち着いた雰囲気の中、皆さんゆったりと過ごされています。また、低料金のため生活保護の方も入居可能です。数年前にリフォームを行い修繕などにも気を付けています。なお、看取り介護も行ってあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、京成八千代台駅より路線バスで約13分、花見川団地中心の商店街に隣接しており、散歩・買い物等日常生活にとって便利な立地環境にある。商店会の催しには徒歩で出かけられ、地域交流の場として活用出来ている。法人の理念である「QOLを基盤とした尊厳と自立の確立」を全職員は会議や申し送りで常に共有し実践している。認知症度合いにより個別対応ではあるが、動ける利用者は家族から預かっているお小遣いの中から、近隣スーパーで自分で買いたいものを楽しんだり写真に記録して家族に報告をしたりしている。入居者の約8割が元団地利用者であり、外出先で知り合いから声を掛けられることもあり、地域との繋がりは継続している方が多い。施設内での活動は、おやつの前後の時間に行う体と脳の活性化を促す座ったまま体操など、落ち着いた生活の中でも適度の運動を楽しんで生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や申し送りにて常に共有している	法人の理念については、事務室の壁カレンダー横にも掲示してあり常に目にして、毎日申し送り時に確認している。月に1度開催している各ユニット毎のフロア会議で、理念を共有し、併せて本部からの連絡や議事録の内容について協議・確認し情報共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花見や散歩や外食等を行っており、地域とのつながりを持っている。	事業所は地域の一員として日常的に交流を図り、団地のイベントにも積極的に参加している。外出機会はできるだけ続けられるよう計画し、桜並木の散歩やお祭りなどには地域交流の貴重な機会であり、自治会・商店会と一体となり取り組んでいる。100円商店や外国人のカレーラーメン店などの商店街の目玉イベントへの参加は楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流に努めているが、実際、認知症がどこまで理解されているかはわからない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が行っている。職員は周知している	運営推進会議は年4回開催され、あんしんケアセンター、民生委員、地域住民等が出席している。会議では、身体拘束廃止委員会・委員会報告などホームの活動報告や避難訓練などに関する報告や相談・質疑応答などが行われ施設運営に反映されている。当施設は建物の老朽化が進み建物全体の空調設備が故障したため、食堂や廊下など共有スペースに個別空調設備が整備され、会議での意見が反映された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市担当者を利用者の件で報告や相談をしている	区役所との連携を強化して管理者が役所と相談を行い、生活保護者の使用料未納問題を解決している。個別に対応し、支払いを分納対応として2025年10月に正常化した。区担当者からは、施設のシフト表を見て人員配置の徹底や運営に関する指導・アドバイスをいただき、施設運営に協力をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていないが状況によってはご家族の理解の下、可能性は否めない	現在、身体拘束は行っておらず、家族の理解を得て対応している。委員会を実施して運営徹底しているが、例として、精神疾患の方が入居され玄関から出でしまう方に対しては家族と担当医の了解をもらって一時的に玄関ロックをした時期があった。通常は開錠しており、玄関ドアへのセンサーベルを設置・運用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修の受講を職員に徹底しており、家族、職員に対しての環境やメンタルケアにも気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、制度を知っている職員も少ない。今後は制度を理解した上で支援して行きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、管理者が十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を開催している。会議で出た意見や要望を運営に反映させている	運営に関して、利用者や家族からの意見や要望を積極的に反映している。宗教の関係で、お寺に月2~3回行く入居者には、本人の精神安定上、施設内での宗教のお話は禁止している。家族の要望による外食外出は柔軟に対応しているが、団地開催の唄の会についてはそれぞれ個室の様子を眺めてもらっている。運営推進会議では、定期報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議で話し合い、反映、改善している	運営に関する職員の意見は、ユニット会議で話し合い、反映し改善している。設備関係については、老朽化が進み窓が古く隙間風対応が必要などといった職員からの意見には、個別に対応しているが、浴槽の構造的な狭さや段差などについては本部との協議を重ねている。毎食のトロミ対応や入浴支援については、個別対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従事者それぞれが向上心を持ち、意見、行動ができる様な環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修や資格取得の機会を積極的に設けている。オンライン研修を利用し感染対策をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんど無い。今後、勉強会も含めて行っていきたくと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状態を把握して本人が安心して生活できるような情報集め支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの中でご家族の思い、不安を聞き、信頼関係を築ける様、支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と接し家族との話し合いの中で困っている事や、要望などを何が必要か見極めて、把握しサービスに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に合わせ、できる事は一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子、状態を定期的に写真や手紙に書き送付したり、電話にて伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ、インフル流行の為外部との交流は難しいが、思い出話をしたり、傾聴等で利用者との交流を大切にしている	隣接する商店街の買い物には旧友との出会いもあり、楽しみの一つになっているので積極的に利用するよう支援している。友人との食事やお寺の集会への参加、散歩で花見や家族と外食などは、可能な範囲で行けるような支援をしている。特に近隣の駅ビルショッピングセンターへの外出についても、可能な範囲で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知度、状態を見極め、互いに助け合ったり話が出来る様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用後の家族が気軽に相談できるような環境作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を家族からお聞きし、出来るだけ希望に沿った生活が過ごせるように支援している	髪にこだわりのある利用者は、妹が連れだして美容院に出かけていたが、歩行が困難となり車いすで出かけるのも体力的に限界となった経過から訪問美容に切り替えた事例がある。夜までテレビを見る習慣のある利用者には、息子の要望を受け就寝前までテレビの前に座ってもらっている。海外の山を登った経験者には、海外の山の映像を動画で見てもらおうと当時の記憶が甦るようである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、または家族より生活環境を聞き、それに近い生活が出来る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体、精神状況を一日過ごした内容を記録に残し全職員が把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心した生活が送れるようにご本人、ご家族、関係者を含め話し合いを持ち、計画作成をしている	物忘れが激しい利用者には不安を和らげる会話に努め、面会を忘れてしまう利用者には家族の面会時の写真を居室に飾り安心感を引き出している。転倒で歩行困難となった利用者には申し送りでシルバーカー使用を決定し、筋力低下が記録から把握された際には即時に車いすへ移行した。職員間の情報共有が進み、その場での即断即決ができるのが当施設の強みといえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートに記入し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望によりその時々ニーズに対応出来る様臨機応変に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域との交流は徐々にだが出ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人別にかかりつけ医がおり十分に支援を受けている	精神疾患のある利用者には入居前からの精神科医による月2回の往診が継続され、内科は一人あたり月2回の往診が組まれているため医師の訪問は結果としてほぼ毎週となり、必要時に速やかに診てもらえる体制である。訪問看護師が毎週バイタルや排便、パルーンを確認し、異常時は主治医へ迅速に連絡できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週一で入り、日常の情報共有に努め緊急時の対応も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時は、医師等に状態を聞き、医師、家族とのカンファレンスに必ず出席し、協力し合える環境づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になってきた時点で医師、家族、職員を交え今後の保身、希望、施設で提供可能なこと、またできない事を明確にし家族の希望に沿えるよう努めている	入居時に終末医療の取扱いを説明し契約を交わし、状態変化が見られた際には方針を見直す体制がある。経験豊富な職員が家族の安心に配慮して支援を心掛け、食事が進まなくなったり水分補給が難しい段階では医師の指示のもとで対応し、居室でラジオの音楽を流すなどして利用者が平穏に過ごせるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応時の場面に合わせマニュアルを作っている。定期的な会議などにて常に見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、避難経路の確認や利用者が避難出来る様、全職員に指導している。	6月に日中、11月に夜間を想定した消防・避難訓練を実施し、寝たきりの利用者を除き全員が参加している。職員の多くが団地内に居住しており、緊急連絡網に基づき迅速に駆けつける体制が整っており、災害時の対応力が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者を敬う気持ちを忘れず、プライドを傷つけないよう、言葉掛けに配慮し対応している	施設は「認知症になっても自分の意思を保ち心穏やかに過ごせる場所」とホームページで掲げているように、利用者一人ひとりに合わせた支援に努めている。おやつ前には回顧法を用いた言葉遊びを行い、性格理解や記憶力低下防止につなげている。また、入浴や排泄介助では同性介助を基本とし、プライバシー保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の中で希望、要望を伺い自己決定できるように促す		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、常に臨機応変に対応出来る様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔、整容に気を付け個人の趣味などに対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症の流行より、買い物には一緒に出掛けることはできないが職員が毎回手作りで料理を提供している。食後は一緒に後片付けを行っている	施設では利用者の外出が難しくなってきた今日、食材の買い出しに利用者が同行することはない。施設内調理の強みを活かし、事前に何を食べたいかを聞いて食材を準備することが可能である。利用者の目の前で調理することで匂いや出来上がりの過程も楽しめ、正月のお重やクリスマスのケーキ、敬老の日の希望食など行事食にも工夫が凝らされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量をチェックし、利用者の状態を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯、口腔内の清潔を保つように個人に合わせてケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員全員で把握し個人の能力にあった支援を行う。自立支援をしている	個別の排泄表に基づき排泄状況と水分補給を把握し、その人に沿ったトイレ誘導を行っている。その人らしく生きることを基本に、トイレに行ったばかりだが、行きたいという場合は意思を尊重した支援を心掛けている。排泄の失敗で気持ちが落ち込む利用者もいるため、職員は失敗を防ぐ支援を意識して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄記録を下に食事のバランス水分量など個々の便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、体調や希望に合わせて入浴している。年々重度化して来る利用者に対しても、気持ち良く入浴して頂ける様に新たな入浴設備(シャワーストレッチャー)を導入し実践している	昨年度より入浴にストレッチャーを導入し、3~4名が利用しており、安全性の向上やお湯に浸かれる効果、垢が出やすいなどの利点がみられる。職員負担の軽減にもつながる一方で複数名の介助が必要という課題もある。着替え場所や浴室を温めて寒さ対策を行い、個別対応では30~40分かけてゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体の状態に合わせ横になる時間を設けるなどして、安心して気持ちよく過ごしてもらうよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の効能知り、変化があった時は主治医に報告・連絡をし、指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きや洗濯物を畳むなど、無理をしない範囲で、出来る方に行ってもらっている。また気分転換に他棟へ散歩に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行により、散歩程度の外出を行っている	利用者アンケート、目標達成計画等からも外出機会が減少している状況にあるが、隣接する商店街への散歩や2か月に1回の認知症カフェ、100円商店街への参加など外出の機会を設けている。外出が難しい場合でも、ラジオ体操やバタカラ体操、しりとり等を取り入れ、体力維持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理を行い、本人や家族の希望に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症のため、本人からは難しいので職員が電話や手紙で状況を報告している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて、季節の飾りつけや花や草木を飾り明るい空間にて過ごしてもらっている	リビングから広い廊下へ続く共有空間には、季節ごとに利用者が作成した折り紙作品が飾られ、季節感を味わえる工夫がみられる。ベランダからは紫陽花が望める環境にあり、利用者にとって鑑賞を楽しむ場ともなっており、居心地のよい共有空間づくりが図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全面に考慮し、椅子やテーブルを配置して気分により場所を変えて過ごせる様に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の居心地良い部屋作りをして頂きたく今まで使用されていた品をお持ちいただいている	入居前から使い慣れた物を持ち込んでもらうことで、自宅での思いを大切に、環境変化による不安の軽減を図っている。各居室のドアには名前とともに色分けされた折り紙の花を飾り、自分の部屋として認識しやすい工夫がされており、居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の動線を確保し、安全に過ごせるよう配置している。また、目印になるようにラベルなどを使い自立した生活が出来る様工夫している		